

「住宅団地再生」連絡会議（第4回会議） プログラム

●午前の部（午前10時～）【テーマ】団地再生の担い手・推進体制について
再生の取組を行っている団地において、地域住民、民間事業者、行政等がどのような体制、目的で取り組んでいるのか等について、取組事例をご紹介します。

開会挨拶・国土交通省等からの情報提供	
①持続可能な遠郊外住宅地を目指して ～埼玉県日高市・こま武蔵台からの報告 【東京大学 樋野公宏准教授】	こま武蔵台は、池袋から約1時間、高麗駅前の丘陵地に立地する人口約5千人、2千世帯の戸建住宅地。1977年の供給開始から40年が経ち、高齢化率は50%に迫る。2008年にはセンター地区のスーパーが撤退し、「買い物難民団地」とも呼ばれた。現住民のQOL向上と、子育て世帯の転入を目指す取り組みを報告する。
②洛西ニュータウンの活性化に向けた京都市の取組 【京都市】	洛西NTでは入居から40年以上が経過し、人口減少、少子高齢化が進行しています。住民が安心して住み続けられる環境づくりや若年ファミリー層の呼び込み、定住促進を図るため、洛西NTアクションプログラム（計画：29～32年度）を策定し、主に低層住宅を対象とした住宅流通促進システムの構築をはじめ、様々な取組を進めています。
③かわにし新時代へ ～ニュータウン再生への取組み～ 【川西市】	全国初の開発指導要綱を制定した川西市は、民間主導で開発されたニュータウンが多く存在します。大和団地・多田グリーンハイツ・清和台の住民主体で実施した「ふるさと団地再生モデルプロジェクト」や、現在、NPOと連携して進めている「空き家対策ナビゲーター養成講座」などの取組事例を紹介します。

●午後の部（午後2時～）【テーマ】生活しやすい住環境の実現に向けて
高齢化が進む住宅団地において、生活しやすい住環境の実現に向けた取組事例について、横断的な取組、交通、生活サービスといった視点でご紹介いただきます。

開会挨拶・国土交通省等からの情報提供	
④北広島団地の再生に向けた取り組み 【北広島市】	本市では、少子高齢化が進む高齢化率が40%を超える戸建て住宅が中心の北広島団地の再生に向けて、住み替えの促進、学校跡施設の活用、公共交通の再編など、行政、市民、民間企業、各種団体が地域一丸となって事業を横断的に実施し、再生に向けた取り組みを推進しています。
⑤高齢化が進む住宅団地での共助によるモビリティサービスの実現に向けて 【東員町】	高齢化する地域での新たな移動手段について考えるため、テーマを「共助」としてグリーンスローモビリティの活用検討に向けた実証調査事業を行いました。地域内で運転手や利用者との調整を行い、地域の中の交通弱者を地域の方が助ける状態を目指しました。
⑥くらしのサポートサービス「ネコサポ」で目指す、ソフトインフラとしての「まち・地域の付加価値向上」 【ヤマトホールディングス株式会社】	ヤマトグループが2016年に多摩ニュータウンで始めた「ネコサポ」は、生活支援サービスを軸に地域に密着し、生活者にとって便利で有益な情報やサービスを繋ぐ「コーディネーター役」を担います。このソフトで、パートナーと共に地域で幅広く創出する有形・無形の付加価値により、戸建て・集合を問わない住宅団地再生にも貢献します。
⑦都市再生機構様との連携協定に基づいた日本総合住生活株式会社様との団地内出店取組事例 【株式会社セブン-イレブン・ジャパン】	日本総合住生活株式会社様と連携協定実現店舗の試行店運営を通じ、実施してきました団地住民様へのサービス、品揃え、地域参加、住民の反応について共有させていただきます。また、5月10日開店の連携協定1号店、JS森之宮団地店の状況をご報告いたします。